

令和2年度 施策評価シート

まちづくりの目標	5	ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
施策目標	5	【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
施策の展開	① ② ③ ④ ⑤	文化ホール事業の充実 市展開催事業の拡充 文化団体の支援 歴史文化遺産の保存活用と継承 文化芸術の推進

施策担当課	文化・スポーツ課
関係課	文化・スポーツ課 文化財課 植野記念美術館

1 施策の現状・推移

5年後のまちの姿	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の鑑賞・体験ができる機会の充実が図られ、「行ってみて良かった」「良い時間が過ごせた」「心が安らいだ」と感じる時間を過ごせています。 文化芸術活動が活発に行える環境整備が進んでおり、文化芸術に携わる人が増え、若手の芸術家が少しずつ育成されています。 子どもたちの記憶に残る文化芸術の鑑賞・体験機会が増えたことにより、豊かな感性や情操を育むとともに、生まれ育った郷土への愛着が醸成されています。 文化芸術に関わる人たちで一つの輪ができ、魅力ある楽しいまちになっています。また、少しずつ交流人口が増え、祭り等の伝統文化や歴史的な街なみが活用されています。
----------	---

2 成果指標・コストの推移

		単位	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考	
成果指標	1年以内に市内の文化ホール等が行う舞台芸術・音楽コンサートや美術館等が行う美術展等へ行ったことがある市民の割合	%	目標	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00		
			実績	37.90	26.10						
	1年以内に地域の伝統芸能や伝統行事へ参加した、または鑑賞したことがある市民の割合	%	目標	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00		
			実績	51.10	34.90						
				目標							
				実績							
コスト	人件費	千円	実績	102,978	125,325	131,225	131,225	125,678	125,678		
	事業費	千円	実績	159,834	398,037	156,082	150,710	150,710	150,710		
	計	千円	実績	262,812	514,362	287,307	281,935	276,338	276,388		
	うち一般財源	千円	実績	186,700	297,670	246,729	243,357	237,810	237,810		

※評価年度は実績、計画年度は予算

3 環境変化

国・県の方針、関連法令の動向	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年に「文化芸術振興基本法」制定。平成29年に「文化芸術基本法」に法律改正され、市町村の文化芸術の推進に関する計画についても、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等、文化芸術など“他分野との連携”が求められるようになった。 歴史や文化財への市民の関心も高まってきており、地域の歴史を学び理解しようとする市民の動きの中において、新たな文化財の掘り起こしや保存、活用することの重要性が増している。
市民ニーズの動向	<ul style="list-style-type: none"> 質の高い舞台芸術が鑑賞できる機会を増やすとともに、情報提供の充実を要望する意見が多い。 歴史・文化に触れる機会を望む声がある。 丹波市立植野記念美術館の展示内容として、比較的柔らかいもの(タレント性のある作家等)や印象派の洋画の展覧会希望も多い。 丹波市立植野記念美術館としての地域性を活かした企画を進めていく必要がある。

4 評価

目標の達成状況は順調か。達成していない原因は何か。	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、地域の伝統行事をはじめ、美術館・資料館の閉館や文化ホール事業の中止・延期があり、文化芸術に触れる機会が減少した。地域に対する誇りや愛着の醸成のためにも、これらの取組を継続・拡充していくことで、まちづくりに繋げていかなければならない。 美術館においては来館者の満足度は概ね高いが、目標数には達していない。目安として言われる市民人口の2割の集客には達しているものの、やはり、普段は美術館に来られないような人々をも惹きつけるような企画立案とともに、館の個性である地域性や中国現代美術などの特色ある館蔵作品を活かして、当館ならではの個性的な展示を目指すことが重要である。
環境変化を踏まえた施策展開となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策を十分行いながら、安全・安心に文化芸術活動を継続する必要がある。 文化芸術行政の推進には、それぞれの教育機関(教育委員会・美術館・歴史民俗資料館)と舞台芸術の拠点としてのホールの有機的連携が必要であり、これまでも市民総がかりの参画により進めている。 青少年、特に高校生の美術教育の時間や機会が大きく減少しており、その世代にむけたワークショップや講座を検討している。 第2回丹波アートコンペティションは、出品数・来場者数が増加しており、個性的な作品を観覧する機会の創出につながっている。今後もアートコンペティションを継続開催し、市民の文化芸術活動推進の核となるよう魅力を高めていく。
事業の構成や役割分担で見直しの余地がないか。	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の推進の役割分担について、市長部局と教育委員会部局との業務内容を明確化するとともに、綿密な連携を図っていかなければならない。

5 今後の改革方向

施策の今後の方向性、構成する事務事業の見直し案	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術に対する施策展開の目標を更に明確にすると共に、国や県の施策とも整合性を持たせながら、具体的な戦略をもった長期的な方向性を示す「丹波市文化芸術推進基本計画」を令和2年2月に策定した。今後は、庁内関係課の進捗状況を共有し成果の見える化に努めるとともに、関係団体等と連携・協働を図り本計画を推進する。 有形・無形文化財をはじめ多くの貴重な歴史文化遺産に対して、市民の理解、関心や保護意識の高揚を図る事業展開を行う。 美術館では、その地域性や、中国現代美術作品などの特色ある館蔵作品を活かして、集客にも配慮しながら当館ならではの個性的な展覧会をめざすとともに、教育という面で事業内容に一層の注力を図る。
-------------------------	---

丹波市総合計画 令和 2 年度事務事業評価 / 令和 3 年度実施計画

事務事業名	ホール運営事業					
事業担当課	まちづくり部 文化・スポーツ課			事業期間	平成 27 ~ 無期 年度	
	所属長	宮野 真理	担当	岡本 渡	担当	十倉 磨呂美

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
	創生総合戦略	基本目標	
		施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
	根拠法令・個別計画等	文化芸術振興基本法、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律、丹波市立文化ホール条例、丹波市文化芸術推進基本計画	

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	一般市民及び舞台芸術等文化活動を行っている市民		
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール事業に積極的に参画してもらう機会(鑑賞、事業への参加、オペレーター登録)をつくることで、舞台芸術に関心のある市民層を増やし、舞台芸術に対する市民意識を高める。 ・ホール事業を通じて舞台芸術文化団体等の支援を行い、活動を活性化させる。 ・小中学生に舞台芸術鑑賞の機会を増加することで、豊かな感性や鑑賞マナーを養う。 		
	概要 (具体的手段・全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞型公演(著名アーティストコンサート等)、県民芸術劇場、ピックアップアーティスト公演(市内出身のアーティスト起用)、自主映画会(年度内3回~4回)、スタインウェイピアノ試奏会(不定期)の開催 ・実施方法: 直接実施 ・アマチュアアーティスト育成支援事業(バンド、ピアノ、ダンス、和太鼓等の各フェスタ) 実施 ・実施方法: 直接実施 ・委託先: アマチュアアーティスト育成支援事業実行委員会 		
	令和2年度の事業概略	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞型公演5回、県民芸術劇場2回、ピックアップアーティスト1回、自主映画会3回、スタインウェイピアノ試奏会2回(8月~10月、1月) ・アマチュアアーティスト育成支援事業は全て中止。 	令和3年度の事業概略	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞型公演、県民芸術劇場、ピックアップアーティスト公演、自主映画会、スタインウェイピアノ試奏会(不定期)の開催 ・アマチュアアーティスト育成支援事業(バンド、ピアノ、ダンス、和太鼓の各フェスタ) 実施

コスト(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
(評価年度は実績、計画年度は予算)								
歳出	総事業費 A+B	21,722	28,255	37,409	37,409	37,409	37,409	
	直接事業費A	12,444	8,826	17,980	17,980	17,980	17,980	
	総人件費計(E+H) B	9,278	19,429	19,429	19,429	19,429	19,429	
	職員従事者数(人・年) C	0.87	1.88	1.88	1.88	1.88	1.88	
	【平均人件費】D	7,400	7,460	7,460	7,460	7,460	7,460	
	人件費 E=C×D	6,438	14,025	14,025	14,025	14,025	14,025	
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	1.42	2.29	2.29	2.29	2.29	2.29	
	【平均人件費】G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360	
人件費 H=F×G	2,840	5,404	5,404	5,404	5,404	5,404		
歳入	特定財源	2,908	3,907	6,475	6,475	6,475	6,475	
	国・県支出金	0	0	0	0	0	0	
	借入金(地方債)	0	0	0	0	0	0	
	受益者負担金	2,635	2,253	6,250	6,250	6,250	6,250	
	その他特財	273	1,654	225	225	225	225	
一般財源	18,814	24,348	30,934	30,934	30,934	30,934		

実施 (DO)	指標名	単位	目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
			実績							
成果	1年以内に市内の文化ホールなどが行う舞台芸術・音楽コンサートへ入ったことのある市民の割合	%	目標	50.0	47.0	47.0	47.0	47.0	47.0	
			実績	37.9	26.1					
成果	自主事業鑑賞者数	人	目標	7,000.0	3,000.0	6,000.0	6,000.0	6,000.0	6,000.0	
			実績	4,920.0	2,294.0					
成果	ボランティアオペレーター数	人	目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	
			実績	51.0	43.0					
成果	高校生以下の鑑賞者満足度	%	目標	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	
			実績	76.8	92.0					
コスト			目標							
			実績							

指標の推移等の背景・分析

- ・令和元年度に策定した文化芸術推進基本計画に定める数値目標のうち、ホール運営に係る指標を設定している。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため、ホール事業が中止・縮小となったため、鑑賞者数が前年比で減少している。
- ・舞台を支えるオペレーター数が減少している。自主事業の減、コロナ禍対策による負担増による会員のモチベーション低下を払拭する取組を検討する必要がある。
- ・自主事業ごとに行っているアンケートを集計した結果、高校生以下の満足度は向上している。幅広い世代が参画できる事業を今後も継続して取り組む。

事務事業名	ホール運営事業		
事業担当課	まちづくり部 文化・スポーツ課	事業期間	平成 27 ~ 無期 年度

事務事業全体の実施 (DO) に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
		(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	劇場、音楽堂等の活性化に関する法律において、地方自治体が芸術文化施策を策定し、劇場音楽堂等を積極的に活用しつつ事業を実施することを定められており、市民の文化芸術意識の向上を図るため、ホールを活用することが求められている。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価		B	自主事業の内容や回数によって鑑賞者数が増減するが、全体的には減少傾向である。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	B	・幅広い年齢層が参画できる事業内容を企画しており、公平性は担保できている。 ・入場料は他市と比較して低料金であることから、増額を検討する。

改革 (ACTION)	総合的な評価と課題 (成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など)					
		<p>・鑑賞者の割合や来場者数の数値が上がっていないことから、幅広い年齢が参加できる多様な公演を企画し、成果を高める取組を進める必要がある。</p> <p>・アーティストの知名度によっては、来場者数が伸び悩むことがあるため、SNSやラジオ放送など、様々な広報ツールを活用して集客の増加を図ることが必要である。</p> <p>・文化振興の拠点施設として位置づけているホールにおいて、生涯学習の一環として活動しているオペレータークラブの強化を図るため、養成講座の充実や組織活動の活性化が必要である。</p>				
	今後の方向性・改善策等	成果・コストの方向性				
	<p>・来館者のアンケートを継続して実施し、舞台芸術のニーズを把握し、観客の増員につながる催物を開催する。</p> <p>・子育て世代や高齢者層のニーズを掘り起こし、気軽にホールへ行きたくするような催物を開催する。</p> <p>・デジタルサイネージやHP等の動画配信など、広報ツールを駆使して幅広くPRを行う。</p> <p>・舞台オペレーターの魅力を発信するため、養成講座のカリキュラムの見直しや体験を通じた研修を実施を検討する。</p>	成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充					✓	
現状維持						
縮小						
休廃止						
		コスト投入の方向性				

●構成する予算小事業一覧

(単位:千円)

No.	予算小事業	コスト (評価年度は実績、計画年度は予算)					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	ホール運営事業	8,826	17,980	17,980	17,980	17,980	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
	合計	8,826	17,980	17,980	17,980	17,980	

丹波市総合計画 令和 2 年度事務事業評価 / 令和 3 年度実施計画

事務事業名	ホール管理事業		
事業担当課	まちづくり部 文化・スポーツ課	事業期間	平成 27 ~ 無期 年度
	所属長 宮野 真理	担当 岡本 渡	担当 吉見 辰浩

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
	創生総合戦略	基本目標	
		施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
	根拠法令・個別計画等	丹波市立文化ホール条例、丹波市立文化ホール条例施行規則、文化芸術振興基本法、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律、丹波市文化芸術推進基本計画	

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	市内文化ホール(ライブピアいちじま大ホール、春日文化ホール)、ホール利用者		
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	本市が直営する市内文化ホールの適正な維持管理		
	概要 (具体的手段・ 全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台吊物、照明、音響、空調等設備機器及び防火対象物等の保守点検 ・実施方法:業務委託 ・委託先:各設備取扱業者 ・設備機器の修繕・工事、備品の整備等保全管理 ・ホール利用時の設備機器操作対応 ・文化ホール事業推進会議の開催 		
	令和2年度の 事業概略	ライブピアいちじま大ホール及び春日文化ホールの維持管理	令和3年度の 事業概略	ライブピアいちじま大ホール及び春日文化ホールの維持管理

コスト(単位:千円) (評価年度は実績、計画年度は予算)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
歳出	総事業費 A+B	25,244	22,940	31,977	31,977	31,977	31,977	
	直接事業費A	18,408	15,933	24,970	24,970	24,970	24,970	
	総人件費計(E+H) B	6,836	7,007	7,007	7,007	7,007	7,007	
	職員従事者数(人・年) C	0.54	0.49	0.49	0.49	0.49	0.49	
	【平均人件費】D	7,400	7,460	7,460	7,460	7,460	7,460	
	人件費 E=C×D	3,996	3,655	3,655	3,655	3,655	3,655	
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	1.42	1.42	1.42	1.42	1.42	1.42	
	【平均人件費】G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360	
人件費 H=F×G	2,840	3,351	3,351	3,351	3,351	3,351		
歳入	特定財源	3,192	1,782	10,316	10,316	10,316	10,316	
	国・県支出金	0	390	0	0	0	0	
	借入金(地方債)	0	0	0	0	0	0	
	受益者負担金	3,192	1,392	3,816	3,816	3,816	3,816	
	その他特財	0	0	6,500	6,500	6,500	6,500	
一般財源	22,052	21,158	21,661	21,661	21,661	21,661		

実施 (DO)	指標名	単位	目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
			実績							
活動	設備機器等の修繕件数 (ライブピアいちじま)	回	目標	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
			実績	5.0	4.0					
活動	設備機器等の修繕件数 (春日文化ホール)	回	目標	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
			実績	1.0	4.0					
成果	文化ホールでの事故件数	回	目標	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
			実績	0.0	0.0					
コスト			目標							
			実績							
コスト			目標							
			実績							
指標の推移等の背景・分析			<p>・年数経過に伴い、修繕箇所は増えていくことが想定されるが、修繕件数を成果指標とすることで、適切な保守点検や日常点検を実施することを促し、適切な管理につながる。</p> <p>・目標を達成できなかったが、日常点検や保守点検による予防保全を主とした修繕に重点を置いた結果である。</p>							

事務事業名	ホール管理事業			
事業担当課	まちづくり部 文化・スポーツ課	事業期間	平成 27 ~ 無期	年度

事務事業全体の実施 (DO) に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
	(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	劇場、音楽堂等の活性化に関する法律において、地方自治体が芸術文化施策を策定し、劇場音楽堂等を積極的に活用しつつ事業を実施することが定められ、市民の文化芸術意識の向上につながる拠点施設として適正に維持管理することが義務付けられている。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	A	予防修繕を行うことで、トータルコストの削減につながっている。
	(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	B	保守管理を適切に実施することで、突発的な修繕は予防できている。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	B	全ての受益者に公平に使用料を徴収しており、受益者負担を適切に求めている。

改革 (ACTION)	総合的な評価と課題 (成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など)				
	<ul style="list-style-type: none"> 適切な保守管理を行い、適切な予防修繕を実施することで、安全な管理ができています。 経年に伴い修繕に必要な箇所が増えてくることが懸念される。 多様な保守管理を一括管理できるような総合管理を検討し、保守管理に係るコストの縮減を検討する。 				
	今後の方向性・改善策等	成果・コストの方向性			
<ul style="list-style-type: none"> 適切な保守管理の継続と日常点検を行い、機器の不良箇所の早期発見に努める。 設備機器の予防保全と更新を計画的に行う。 一括管理の手法について、市内の類似公共施設や他市の管理方法の情報収集を行い、コスト縮減につながる取組を進める。 	成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
		拡充			
		現状維持		✓	
		縮小			
	休廃止				
コスト投入の方向性					

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト (評価年度は実績、計画年度は予算)					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	ホール管理事業	15,933	24,970	24,970	24,970	24,970	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
合計		15,933	24,970	24,970	24,970	24,970	

丹波市総合計画 令和 2 年度事務事業評価 / 令和 3 年度実施計画

事務事業名	芸術文化振興事業		
事業担当課	まちづくり部 文化・スポーツ課	事業期間	平成 27 ~ 無期 年度
	所属長 宮野 真理	担当 十倉 鷹呂美	担当 岡本 渡

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
	創生総合戦略	基本目標	
		施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
	根拠法令・個別計画等	文化芸術振興基本法、丹波市アートコンペティション実行委員会設置要綱、丹波市俳人細見綾子ふるさと文化振興基金条例、丹波市文化芸術推進基本計画	

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	各文化協会会員・各郷土民謡保存会会員、芸術文化に親しもうとする市民	
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	・丹波市文化協会、丹波市郷土民謡保存協会をはじめとする文化団体の活動を支援し、文化芸術に関わる活動を強化することで、団体の自立を促進させるとともに、本市の文化芸術活動に関する情報発信を促進する。	
	概要 (具体的手段・全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・丹波市文化協会、丹波市郷土民謡保存協会をはじめとする芸術文化団体のへ補助金交付及び活動支援 ・丹波アートコンペティション(丹波市展)の開催により、文化芸術の裾野拡大とモチベーションアップを図る。 ・実施方法: 直接実施 ・丹波市俳人細見綾子生家の整備、維持管理及び丹波市俳人細見綾子ふるさと文化振興基金管理 ・丹波市文化芸術推進基本計画の進捗管理 	
	令和2年度の 事業概略	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会、郷土民謡保存協会への運営補助 ・丹波アートコンペティションの開催 ・細見綾子生家維持管理 ・文化芸術サロンの実施(文化芸術推進基本計画に基づく新規事業の展開) 	令和3年度の 事業概略

コスト(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
(評価年度は実績、計画年度は予算)								
歳出	総事業費 A+B	29,153	20,987	22,564	22,564	22,564	22,564	
	直接事業費A	13,265	9,305	10,882	10,882	10,882	10,882	
	総人件費計(E+H) B	15,888	11,682	11,682	11,682	11,682	11,682	
	職員従事者数(人・年) C	2.12	1.49	1.49	1.49	1.49	1.49	
	【平均人件費】D	7,400	7,460	7,460	7,460	7,460	7,460	
	人件費 E=C×D	15,688	11,115	11,115	11,115	11,115	11,115	
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	0.10	0.24	0.24	0.24	0.24	0.24	
	【平均人件費】G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360	
人件費 H=F×G	200	566	566	566	566	566		
歳入	特定財源	6,569	1,127	1,361	1,361	1,361	1,361	
	国・県支出金	0	0	0	0	0	0	
	借入金(地方債)	0	0	0	0	0	0	
	受益者負担金	506	552	459	459	459	459	
	その他特財	6,063	575	902	902	902	902	
一般財源	22,584	19,860	21,203	21,203	21,203	21,203		

実施 (DO)	指標名	単位	目標 実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
成果	丹波市文化協会会員数	人	目標	3,500.0	3,000.0	3,000.0	3,000.0	3,000.0	3,000.0	
			実績	2,640.0	2,533.0					
成果	丹波市郷土民謡保存協会会員数	人	目標	500.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	
			実績	369.0	339.0					
成果	丹波アートコンペティション作品応募数(市民のみ)	点	目標	170.0	170.0	170.0	170.0	170.0	170.0	
			実績	105.0	94.0					
成果	文化芸術サロン参加者数	人	目標	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
			実績	-	107.0					
コスト			目標							
			実績							
コスト			目標							
			実績							
指標の推移等の背景・分析		<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会、郷土民謡保存協会とともに、会員数の減少となった。これまでも減少傾向であったが、新型コロナの影響で、活動が満足に実施できていないことも減少の要因となった。目標として令和2年度当初の会員数の現状維持をめざす。 ・丹波アートコンペティションは、令和元年度スタートの事業であり、第2回目の出点数を基準として、成果指標の目標数値を設定する。 ・文化芸術サロンは、文化芸術推進基本計画に基づく新規事業であり、令和3年度から本格化していく事業とする。 								

事務事業名	芸術文化振興事業				
事業担当課	まちづくり部 文化・スポーツ課	事業期間	平成 27 ~ 無期	年度	

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
		(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	・文化芸術推進基本計画において「文化芸術活動が活発に行える環境整備を行う」ことを目標に掲げており、文化団体の育成や展覧会の開催などを行う必要がある。 ・アートコンペティションやサロンの開催により、市民の文化芸術活動の機会となることから、市が施策として実施すべきである。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B
	(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	B	・文化団体の高齢化や、後継者不足に伴い会員数が減少しているが、持続可能な活動を実施されている。 ・アートコンペティションの点数は増加しており、市民美術展を拡充した成果になっている。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	・市民誰もが参加できるような文化芸術事業を展開しており、公共性は高い。

総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）																																		
改革 (ACTION)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化団体は、活動者が高齢化しており、会員数は減少している中でも、地域文化の普及や継承に意欲的に取り組まれている。 ・丹波アートコンペティションにおいて、点数が増加しており、個性的な作品を観覧する機会の創出につながっている。 ・文化芸術推進基本計画における新規事業として取り組む文化芸術サロン事業については、コロナ禍のため計画どおり実施できなかったが、年度末に子育て世代へのサロンを実施し、事業に着手することができた。 																																	
	<p>今後の方向性・改善策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化団体への補助については、会員数の減少に歯止めをかけるためにも、活動を維持し続けていける支援を継続していく。 ・アートコンペティションを継続開催し、市民の芸術活動の核となるよう魅力を高めていく。 ・文化芸術サロン事業を本格的に展開し、市民の芸術活動の交流を深めていく。 																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">成果・コストの方向性</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>皆減</th> <th>縮小</th> <th>現状維持</th> <th>拡大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="4">成果の方向性</th> <th>拡充</th> <td></td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <th>現状維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>縮小</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>休廃止</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>コスト投入の方向性</p>			成果・コストの方向性						皆減	縮小	現状維持	拡大	成果の方向性	拡充			✓		現状維持					縮小					休廃止				
		成果・コストの方向性																																
		皆減	縮小	現状維持	拡大																													
成果の方向性	拡充			✓																														
	現状維持																																	
	縮小																																	
	休廃止																																	

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	俳人細見綾子生家管理事業	371	761	761	761	761	
2	芸術文化団体育成事業	5,786	5,927	5,927	5,927	5,927	
3	丹波市俳人細見綾子ふるさと文化振興基金管理事業	204	145	145	145	145	
4	芸術文化振興事業	64	498	498	498	498	
5	市展開催事業	2,880	3,551	3,551	3,551	3,551	
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
	合計	9,305	10,882	10,882	10,882	10,882	

丹波市総合計画 令和 2 年度事務事業評価 / 令和 3 年度実施計画

事務事業名	文化財管理・保存事業		
事業担当課	教育部 文化財課	事業期間	令和 2 ~ 無期 年度
	所属長 山内 邦彦	担当 井口 幸一	担当 下山 文隆、西岡 真理

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
	創生総合戦略	基本目標	
		施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
	根拠法令・個別計画等	文化財保護法、県文化財保護条例、市文化財保護条例、市指定文化財保存整備等補助交付要綱	

計画 (PLAN)	対象 (誰を、何を)	文化財や地域に残る歴史的文化的遺産の所有者と管理者、及び文化財や歴史に興味や関心を持つ人		
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	文化遺産を将来にわたって良好な状態で管理・保存するため、 ・文化遺産がまちづくりにおける歴史的、文化的な核に位置づけられるようにしていく。 ・文化遺産がまちづくりの重要な資源として利活用され、保護・伝承していく意識を高められるようにする。		
	概要 (具体的手段・ 全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・市が所有、管理する指定文化財の適正な管理・保存 ・市内の指定文化財所有者・管理者へ保護と管理の指導や保存整備のための補助金を交付 ・文化財保護審議委員会の開催 ・古文書等歴史文化資料の調査活動の展開 		
	令和2年度の 事業概略	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保存修理事業 ・文化財の維持、管理事業 ・歴史講座の開催 	令和3年度の 事業概略	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保存修理事業 ・文化財の維持、管理事業 ・歴史講座の開催

コスト (単位: 千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考			
(評価年度は実績、計画年度は予算)											
歳出	総事業費 A + B	64,007	54,677	39,493	39,493	39,493	39,493				
	直接事業費 A	50,169	39,757	24,573	24,573	24,573	24,573				
	総人件費計 (E + H) B	13,838	14,920	14,920	14,920	14,920	14,920				
	職員従事者数 (人・年) C	1.87	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00				
	【平均人件費】 D	7,400	7,460	7,460	7,460	7,460	7,460				
	人件費 E = C × D	13,838	14,920	14,920	14,920	14,920	14,920				
	会計年度任用職員従事者数 (人・年) F	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				
	【平均人件費】 G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360				
人件費 H = F × G	0	0	0	0	0	0					
歳入	特定財源	26,576	17,057	1,000	1,000	1,000	1,000				
	国・県支出金	16,876	9,653	1,000	1,000	1,000	1,000				
	借入金 (地方債)	0	7,400	0	0	0	0				
	受益者負担金	0	0	0	0	0	0				
	その他特財	9,700	4	0	0	0	0				
一般財源	37,431	37,620	38,493	38,493	38,493	38,493					
実施 (DO)	指標名	単位	目標 実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考	
	活動	文化財保存整備補助金 交付件数	件	目標	16.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
				実績	11.0	3.0					
	活動	歴史講座等の実施回数	回	目標	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	
				実績	8.0	7.0					
				目標							
				実績							
	コスト			目標							
				実績							
	コスト			目標							
				実績							
	指標の推移等の背景・分析		指定文化財保存整備等補助金の活用については、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、減少した。								

事務事業名	文化財管理・保存事業			
事業担当課	教育部 文化財課	事業期間	令和 2 ~ 無期	年度

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
	(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	A	文化財保護法に基づき本市に所在する文化財を保護し、かつ、その活用を図り、市民の文化的向上を図る必要があるため、必要な事業である。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	B	B	文化財を維持管理する人が高齢化しており、郷土の文化財に対する若者の意識を高めるためにも、文化財活用を推進する必要がある。これには子どもたちに地域の歴史遺産に関心を持たせるようにするため、地域や学校と連携を図る必要がある。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	指定文化財の保存整備等補助事業については、所有者からの要望書の内容や緊急性を吟味しながら公平を期す。また、市指定文化財の補助事業は、市の条例により認定事業費を30万円以上としているため、それ以下の事業については所有者負担としている。

改革 (ACTION)	総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）					
		<ul style="list-style-type: none"> 指定文化財の保護、維持管理の支援に留まることなく、未指定文化財の調査等を推進し、市内全体の文化財の保護・活用を推進する必要がある。 市民に文化財や歴史遺産に関心を持っていただける事業や文化財を利活用した取組を推進し、後世に歴史遺産を残していく仕組づくりを充実させる必要がある。 個々の文化財を「点」として保存することから地域の文化財を「面」として一体的に整備・活用する発想の転換が求められている。 				
	今後の方向性・改善策等	成果・コストの方向性				
	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の指定・未指定を問わず、その周辺環境も含めた保存・活用を図るため、今後において基本的な指針の整理を進めていく。 積極的な活用（会議・イベント等）に適した文化財をリストアップし、地元自治会や観光部署と連携してその活用を推進する。 	成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
			拡充		✓	
			現状維持			
			縮小			
		休廃止				
		コスト投入の方向性				

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	文化財管理・保存事業	19,698	24,573	24,573	24,573	24,573	
2	文化財整備事業	20,059					
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
	合計	39,757	24,573	24,573	24,573	24,573	

丹波市総合計画 令和 2 年度事務事業評価 / 令和 3 年度実施計画

事務事業名	埋蔵文化財調査事業					
事業担当課	教育部 文化財課	事業期間			令和 2 ~ 無期	年度
	所属長 山内 邦彦	担当 井口 幸一	担当 西岡 真理			

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
	創生総合戦略	基本目標	
		施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
根拠法令・個別計画等 文化財保護法、県文化財保護条例、市文化財保護条例、市指定文化財保存整備等補助交付要綱			

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	埋蔵文化財試掘・発掘調査出土遺物		
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	これまでに試掘、発掘調査で出土した膨大な遺物を整理し、報告書刊行のための基礎資料にするとともに、これらを展示・公開することで保存活用を図る。		
	概要 (具体的手段・全体計画)	開発等に伴い必要となる埋蔵文化財の試掘・発掘調査及びこれまでの試掘・発掘調査で出土した遺物の洗浄、注記、復元、実測、図面トレース、写真撮影等の整理作業を行う。		
	令和2年度の 事業概略	試掘調査、遺物の洗浄、注記、復元、実測、図面トレース、写真撮影等の整理作業を行った。	令和3年度の 事業概略	試掘調査、報告書の作成・準備を行う。

コスト(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考			
(評価年度は実績、計画年度は予算)											
歳出	総事業費 A+B	5,867	6,777	5,792	5,792	5,792	5,792				
	直接事業費 A	3,869	3,718	2,733	2,733	2,733	2,733				
	総人件費計 (E+H) B	1,998	3,059	3,059	3,059	3,059	3,059				
	職員従事者数 (人・年) C	0.27	0.41	0.41	0.41	0.41	0.41				
	【平均人件費】 D	7,400	7,460	7,460	7,460	7,460	7,460				
	人件費 E = C × D	1,998	3,059	3,059	3,059	3,059	3,059				
	会計年度任用職員従事者数 (人・年) F	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				
	【平均人件費】 G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360				
人件費 H = F × G	0	0	0	0	0	0					
歳入	特定財源	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500				
	国・県支出金	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500				
	借入金(地方債)	0	0	0	0	0	0				
	受益者負担金	0	0	0	0	0	0				
	その他特財	0	0	0	0	0	0				
一般財源	4,367	5,277	4,292	4,292	4,292	4,292					
実施 (DO)	指標名		単 位	目標 実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
	活動	試掘・発掘調査件数	件	目標	11.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	
				実績	9.0	6.0					
	成果	出土遺物の整理箱数	箱	目標	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
				実績	25.0	25.0					
	成果	報告書の作成	冊	目標	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
				実績	1.0	1.0					
				目標							
				実績							
	コスト			目標							
				実績							
	コスト			目標							
				実績							
	指標の推移等の背景・分析		実施年度の埋蔵調査の場所や調査対象の内容により、実績となる点数が異なり、数値を平準化できない面があり、見込目標値と実績に差が出ることがある。								

事務事業名	埋蔵文化財調査事業		事業期間	令和 2 ~ 無期 年度
事業担当課	教育部 文化財課			

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント	
評価 (CHECK)	(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	文化財保護法に基づく埋蔵文化財の調査は、該当しない市民には直接影響しない事業であるが、国や本市の歴史と文化の成り立ちを理解するうえで欠くことのできないものであり、市内の地下遺構である文化財を保護する点においては、重要な事業である。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B	開発事業に伴う埋蔵文化財の調査は、長期間に及ぶ場合が想定され、文化財課が所掌する他事業への影響を考慮し、調査を行う職員（会計年度任用職員）の配置を検討する。
	(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	B	発掘調査報告書の刊行に向けて、出土遺物の整理を進めているが、その量が膨大であり、且つ人員不足による理由から、報告書の刊行に遅れが生じている。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	調査が必要か公平かの判断は中核都市ではない丹波市にはなく、県が決定するものである。 また、試掘・確認調査の費用負担は文化財保護法に基づき、国庫補助を受けて各市町が行なうものとなっている。本発掘調査は保護法や文化庁通知に基づき、原則として原因者負担をお願いしている。

総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）	
改革 (ACTION)	<ul style="list-style-type: none"> 少ない人員配置の中で開発等に伴い発生する埋蔵文化財試掘調査（発掘された遺物整理を含む）に従事しなければならない状況にある。 過去の発掘調査で出土した遺物の記録図面の作成や報告書刊行、資料館等での公開・展示に向けた整理が必要な状況となっている。
	<p>今後の方向性・改善策等</p> <p>市民が埋蔵文化財を通して地域の歴史を知る機会を提供していくためには、埋蔵文化財の調査から出土した遺物の目録作成等までを一貫して行う効率的な管理運用体制の構築が求められ、出土遺物をいつでも公開・展示できるようにしておくための整理（データベース化）も必要である。</p> <p>このことから、その業務に専属的に従事する職員（会計年度任用職員）の配置を検討していく。</p>

		成果・コストの方向性			
		皆減	縮小	現状維持	拡大
成果の方向性	拡充	/		✓	
	現状維持				/
	縮小				/
	休廃止				/

コスト投入の方向性

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	埋蔵文化財調査事業	3,718	2,733	2,733	2,733	2,733	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
合計		3,718	2,733	2,733	2,733	2,733	

丹波市総合計画 令和 2 年度事務事業評価 / 令和 3 年度実施計画

事務事業名	歴史民俗資料館管理・運営事業		
事業担当課	教育部 文化財課	事業期間	令和 2 ~ 無期 年度
	所属長 山内 邦彦	担当 井口 幸一	担当 徳原 由紀子

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
		施策目標	5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
	創生総合戦略	基本目標	【3】地域の魅力や人のつながりを活かして移住・定住につなげる
		施策	【3-2】 地域資源の魅力を活かす
	まちづくりビジョン	取組項目	
	根拠法令・個別計画等	丹波市立歴史民俗資料館条例、丹波市立歴史民俗資料館条例施行規則、丹波市立氷上回廊水分れフィールドミュージアム条例、丹波市立水分れフィールドミュージアム条例規則	

計画 (PLAN)	事務事業	対象(誰を、何を)	丹波市の歴史を知りたい市内外の人々、指定文化財及び未指定の地域に残る文化遺産	
		目的 ベストな状態 (期待される効果)	市民に対し、市の歴史や文化に触れる機会を設けることにより、 ・市民が丹波市の歴史・文化遺産・ゆかりの人物について理解が深められるようにする。 ・市民に地域に対する誇りや愛着の心を醸成する。	
		概要 (具体的手段・ 全体計画)	・各資料館の管理運営、企画展の開催 ・水分れ資料館のリニューアル	
		令和2年度の 事業概略	・各資料館の維持管理 ・企画展、関連講座の開催 ・歴史講座ミニ企画の開催 ・水分れ資料館のリニューアル	令和3年度の 事業概略

コスト(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考			
(評価年度は実績、計画年度は予算)											
歳出	総事業費 A+B	53,873	307,060	69,497	64,125	58,578	58,578				
	直接事業費A	28,933	277,112	33,649	28,277	28,277	28,277				
	総人件費計(E+H) B	24,940	29,948	35,848	35,848	30,301	30,301				
	職員従事者数(人・年) C	3.10	3.54	3.54	3.54	2.48	2.48				
	【平均人件費】D	7,400	7,460	7,460	7,460	7,460	7,460				
	人件費 E=C×D	22,940	26,408	26,408	26,408	18,501	18,501				
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	1.00	1.50	4.00	4.00	5.00	5.00				
	【平均人件費】G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360				
人件費 H=F×G	2,000	3,540	9,440	9,440	11,800	11,800					
歳入	特定財源	19,136	181,960	10,270	8,270	8,270	8,270				
	国・県支出金	6,600	51,275	4,764	4,764	4,764	4,764				
	借入金(地方債)	11,200	126,500	2,393	2,393	2,393	2,393				
	受益者負担金	1,336	1,006	925	925	925	925				
	その他特財	0	3,179	2,188	188	188	188				
一般財源	34,737	125,100	59,227	55,855	50,308	50,308					
実施 (DO)	指標名		単位	目標 実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
	成果	氷上回廊水分れフィールドミュージアム年間入館者数	人	目標	-	-	30,000.0	30,000.0	30,000.0	30,000.0	
				実績	-	3,913.0					
	成果	歴史民俗資料館入館者数	人	目標	7,000.0	7,000.0	6,000.0	6,500.0	6,500.0	7,000.0	
				実績	8,596.0	3,385.0					
				目標							
				実績							
				目標							
				実績							
	コスト	入館者1人あたりの資料館運営コスト	円	目標	22,105.6	39,380.8	1,918.1	0.0	0.0	0.0	事業費 入館者数
コスト			実績	6,267.2	41,749.8						
			目標								
			実績								
指標の推移等の背景・分析		新型コロナウイルス感染症により、4月10日から5月31日まで臨時休館となった。このため、入館者数が減少した。									

事務事業名	歴史民俗資料館管理・運営事業				
事業担当課	教育部 文化財課	事業期間	令和 2 ~ 無期	年度	

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
		(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	・市の歴史文化に触れられる施設として、市民や子どもたちに対して地域への誇りや愛着の醸成が期待できる。 ・今後、文化財の保存・活用を通じたまちづくりを展開する核となる施設であり、必要な事業である。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	A
	(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	B	・フィールドミュージアムを除いて学芸員が各資料館に常駐しておらず、積極的な活用が難しく、資料館を整理・統合することで効率的な運営が求められる。 ・企画展、関連講座を開催し、丹波市の歴史に興味を持ってもらうことができた。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	B	館蔵資料の商業利用について、使用料を求めることも今後検討する必要がある。

改革 (ACTION)	総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）																													
		<ul style="list-style-type: none"> ・水分けフィールドミュージアムがリニューアルオープンし、多くの来館者があった。 ・企画展、関連講座や神戸大の歴史講座に関連したミニ企画を開催し、丹波市の歴史について広く紹介することができた。 																												
	今後の方向性・改善策等	成果・コストの方向性																												
	<ul style="list-style-type: none"> ・資料館の整理・統合の検討 ・企画展やワークショップの開催により来館者数の増加を目指す。 	成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大																								
		<table border="1"> <tr> <td>拡大</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>✓</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡大					✓	現状維持						縮小						休廃止						コスト投入の方向性			
拡大					✓																									
現状維持																														
縮小																														
休廃止																														

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	歴史民俗資料館等管理事業	6,824	12,196	6,824	6,824	6,824	
2	氷上回廊水分けフィールドミュージアム拠点整備事業	262,141					
3	氷上回廊水分けフィールドミュージアム管理運営事業	6,224	21,453	21,453	21,453	21,453	
4	歴史民俗資料館等管理事業（繰越分）	1,923					
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
	合計	277,112	33,649	28,277	28,277	28,277	

丹波市総合計画 令和 2 年度事務事業評価 / 令和 3 年度実施計画

事務事業名 美術館管理運営事業
事業担当課 教育部 植野記念美術館
事業期間 平成 16 ~ 無期 年度
所属長 山内 邦彦 担当 古川 徳晴 担当 玉出 隼人

位置づけ
総合計画 まちづくり目標 【5】ふるさとに愛着と誇りをもった人づくりのまち
施策目標 5【文化芸術】地域の文化芸術を守り、育て、活かそう
創生総合戦略 基本目標 【3】地域の魅力や人のつながりを活かして移住・定住につなげる
施策 【3-2】 地域資源の魅力を活かす
まちづくりビジョン 取組項目
根拠法令・個別計画等 教育基本法、社会教育法、博物館法、文化財保護法、文化芸術振興基本法、著作権法、丹波市文化芸術推進基本計画 他

計画 (PLAN)
対象 (誰を、何を) 入館者、未入館者
目的 ベストな状態 (期待される効果)
概要 (具体的手段・全体計画)
令和2年度の事業概略
令和3年度の事業概略

コスト (単位:千円)
(評価年度は実績、計画年度は予算)
歳出
総事業費 A+B
直接事業費 A
総人件費計 (E+H) B
職員従事者数 (人・年) C
【平均人件費】D
人件費 E=CxD
会計年度任用職員従事者数 (人・年) F
【平均人件費】G
人件費 H=FxG
歳入
特定財源
国・県支出金
借入金 (地方債)
受益者負担金
その他特財
一般財源

実施 (DO)
指標名 単位 目標 実績
令和元年度 令和2年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度 令和6年度 備考
成果 植野記念美術館年間入館者数 人
成果 展覧会に対する満足度 %
成果 ワークショップ等イベントの参加率 (充足率) %
成果 美術館友の会年間会員数 人
コスト
コスト

指標の推移等の背景・分析
・全般的に地域ゆかりの作家や現代作家などを取り上げて紹介した。「山本二三展」については、スタジオジブリ作品の知名度の高さによりコロナ禍にもかかわらず、目標人数を大幅に超えて歴代3位の入館者数となった。
・友の会会員数は、コロナ禍により関連イベントが中止になり、美術館めぐり等の研修も中止になったため、大幅に減少した。

事務事業名	美術館管理運営事業			
事業担当課	教育部 植野記念美術館	事業期間	平成 16 ~ 無期	年度

事務事業全体の実施 (DO) に対する、事務事業の展開の評価・課題について					
評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	・学校教育において大きな教材となっている。 ・市民の芸術活動の発表の場として活用されている。 ・丹波市ゆかりの優れた芸術家の作品や、創設者の植野藤次郎が蒐集した中国、パプアニューギニア、現代美術作品等の保存・収蔵の場所として機能している。 ・都市部に行かなくても身近で芸術作品を鑑賞することができる。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B	・展覧会企画の多様化のなかで、企画会社の持込企画を減らし、地域性や館の個性を活かした自主企画展を増やすことで、コストの低減を図った。 ・環境の変化と施設の経年劣化に対応して、昨年度までに施設改修 (LED改修・空調設備の改修等) を行った事により、電気料金等の使用料金の低廉化を図った。
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	B	・基本的に展覧会は啓蒙的な部分が大きく、また単なるイベント事業ではないため、観覧者層の広がりは大きくはない。成果指標の入館者数については伸び悩んでいる。しかし、可能な限り市民に来館してもらうため、企画内容の多様化を図る必要はある。 ・近年、丹波新聞や阪神間の情報紙への記事掲載等により広報に注力した結果、周辺自治体在住の観覧者が着実に増えている。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	・公平に観覧料を負担して頂いている。 ・研修室の使用に際しては条例に基づき公平に負担してもらっている。

総合的な評価と課題 (成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など)																																	
改革 (A) C T I O N	<p>・やはり、入館者数については大事な指標であり、常にその増加を見込むものではある。この点については企画内容の多様化、そして様々な施設や組織との連携や関連イベントの実施など複合的に事業内容の充実を目指して指標の充足に努めてきたが、当初予定を超えることは出来なかった。</p>																																
	<p>今後の方向性・改善策等</p> <p>・次年度以降は、展覧会内容の充実はもとより、2階ギャラリースペースでの美術館企画での地域の作家の紹介展、友の会活動内での学習会、学校団体観覧に対する鑑賞教室の充実など、関連事業での活動の試行を行い、より多くの人々が、美術館において生涯学習への達成感と参加意識が持てる機会を増やし、入館者の増加と満足度の向上を目指す。</p> <p>・ウイズコロナ時代の新しい美術館のあり方について、丹波市H P以外に、SNS (YouTube、Facebook、Line等) を通じて積極的に発信していく。</p>																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">成果・コストの方向性</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>皆減</th> <th>縮小</th> <th>現状維持</th> <th>拡大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="4">成果の方向性</th> <th>拡充</th> <td></td> <td>✓</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>現状維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>縮小</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>休廃止</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">コスト投入の方向性</p>			成果・コストの方向性						皆減	縮小	現状維持	拡大	成果の方向性	拡充		✓			現状維持					縮小					休廃止			
		成果・コストの方向性																															
		皆減	縮小	現状維持	拡大																												
成果の方向性	拡充		✓																														
	現状維持																																
	縮小																																
	休廃止																																

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト (評価年度は実績、計画年度は予算)					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	美術館管理運営事業	34,386	41,295	41,295	41,295	41,295	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
	合計	34,386	41,295	41,295	41,295	41,295	